科目名	ＰＣ演習Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	伊藤由美子	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	1年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Wordを用いて簡単なビジネス文書作成ができる。同時にパソコン、ワープロ、ビジネス文書に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標（到達目標）	サーティファイWORD文書処理技能認定試験3級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	wordクイックマスター、WORD文書処理技能認定試験3級問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】Word基本操作 （文字入力、編集、文書の編集、印刷、作成等	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】Word基本操作 （文字の作成、表を使った文書、図形や画像を使った文書等）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3	【3日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
4	【4日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	ＰＣ演習Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	望月巧		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft Excelを用いてビジネス社会における簡単なわーきシートの作成とデータ入力を行うことができる。同時にパソコン、表計算、ビジネス図表に関する基礎的な技能を習得する				
学習目標（到達目標）	サーティファイEXCEL表計算処理技能認定試験3級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	excelクイックマスター、EXCEL表計算処理技能認定試験3級問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】Excel基本操作 （データ編集、表の編集、ブックの印刷、グラフと図形の作成）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】Excel基本操作 （ブックの利用と管理、関数、データベース機能）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3	【3日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
4	【4日目】問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	PC演習Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	笹川武康	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	3年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	Microsoft PowerPointに関する基礎的な技能を有しビジネスシーンを想定した仕様に従った標準的なプレゼンテーションを作成することができる				
学習目標（到達目標）	サーティファイ　プレゼンテーション技能認定試験初級　合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	PowerPointクイックマスター、PowerPointプレゼンテーション技能認定試験問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】PowerPointの基本操作 （作成、文字やスライドの編集、オブジェクトの作成、表やグラフの作成、表示効果とハイパーリンク、スライドショー、カスタマイズ、動作の設定、等）	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
2	【2日目】PowerPointの基本操作　問題演習	パソコン、筆記用具、テキスト、問題集
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	英会話	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミングインストラクター学科	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学び、最低限の会話力を身につける。また、国際感覚を身に付けるために海外の文化・習慣についても学ぶ。				
学習目標（到達目標）	日常会話に必要な最低限の英語力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	適宜授業内容に関するプリントを配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Getting Acquainted	会話と板書による学習
2	Getting Acquainted	会話と板書による学習
3	Experiences	会話と板書による学習
4	Experiences	会話と板書による学習
5	Sport & Lisure	会話と板書による学習
6	Sport & Lisure	会話と板書による学習
7	Shopping & Money	会話と板書による学習
8	Shopping & Money	会話と板書による学習
9	Food	会話と板書による学習
10	Food	会話と板書による学習
11	Travel	会話と板書による学習
12	Travel	会話と板書による学習
13	Movies & Television	会話と板書による学習
14	Movies & Television	会話と板書による学習
15	Work	会話と板書による学習
16	Work	会話と板書による学習

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	増加するインバウンドに対して英語でガイドできる人材が求められています。授業内外で積極的に会話することで語学力を高めてください。

実務経験教員の経歴	日本での英語教師歴10年以上

科目名	英会話集中Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	外部委託（講師）	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミングインストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学ぶ。自治体や地域企業との連携により冬期間の各修業先での業務を行いながら外国人来訪者との英会話をはじめ総合的なコミュニケーション技術を学ぶ。				
学習目標（到達目標）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実習テキスト、実習日誌				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	修業先（インターンシップ先）とのオリエンテーション、仕事内容確認	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
2	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
3	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
4	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
5	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
6	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
7	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
8	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
9	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
10	修業先での外国人来訪者対応、修業先からの総括	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	

科目名	英会話集中Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	外部委託（講師）	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミングインストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40時間
授業概要、目的、授業の進め方	海外でコミュニケーションをとるのに必要な英語を学ぶ。自治体や地域企業との連携により冬期間の各修業先での業務を行いながら外国人来訪者との英会話をはじめ総合的なコミュニケーション技術を学ぶ。				
学習目標（到達目標）					
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実習テキスト、実習日誌				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	修業先（インターンシップ先）とのオリエンテーション、仕事内容確認	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
2	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
3	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
4	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
5	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
6	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
7	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
8	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
9	修業先での外国人来訪者対応	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
10	修業先での外国人来訪者対応、修業先からの総括	インターンシップ先から指定された持ち物、実習日誌
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	

科目名	コミュニケーション技法	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	小野　彰太		実務授業の有無	○	
対象学科	全学科	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	コミュニケーション能力は数年連続で、企業が採用時に求める能力ランキングでダントツ1位となっています。これからのインターンシップや就職活動を見据え、基本的なコミュニケーションスキルやビジネスマナーを習得することを目的に授業を行います。				
学習目標（到達目標）	コミュニケーション検定を受検し、合格する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■コミュニケーション検定初級_公式ガイドブック＆問題集　■動画で学ぶコミュニケーション（eラーニング教材）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	コミュニケーションのもつ力	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
2	聞く力	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
3	話す力①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
4	話す力②	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
5	来客応対　／　電話応対	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
6	アポイントメント・訪問・挨拶　／　情報共有の重要性　／チーム・コミュニケーション	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
7	接客・営業　／クレーム対応	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
8	会議・取材・ヒアリング　／　面接	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■グループワーク
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、受講態度、検定の合否によって総合的に評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	以下のルールを守り、気持ちよく学びましょう。 ・授業の最初と最後はハッキリとした声で挨拶をすること ・ワークショップや話し合い、スピーチの機会があるときは、相手の話に頷いたり、自分の考えていることを発信するなど意思表示を心がけること（話し手への気遣い）

実務経験教員の経歴	ファシリテーション指導歴4年、就職指導科目担当

科目名	社会人常識マナー検定対策	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	福山泰子	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/クライミングインストラクター	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての必要な知識やマナーの習得を目指す				
学習目標（到達目標）	社会人常識マナー検定3級合格				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	社会人常識マナー検定3級テキスト/問題集				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】社会常識（社会と組織、仕事と成果、一般常識）	筆記用具、テキスト、問題集
2	【1日目】コミュニケーション （ビジネスコミュニケーション、言葉遣い、ビジネス文書）	筆記用具、テキスト、問題集
3	【2日目】ビジネスマナー （職場のマナー、来客対応、交際業務、）	筆記用具、テキスト、問題集
4	【2日目】ビジネスマナー、検定対策 （文書等の受け取り発送、会議等）	筆記用具、テキスト、問題集
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	就職実務	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	自己PR、履歴書の作成や模擬面接等、就職活動に必要な一連のプロセス、必要書類について学ぶ。				
学習目標（到達目標）	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	◆ライフデザインナビ2「ビジネス適性診断」Web　◆動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）◆その他資料（ワークシート）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	就職活動の動機づけ　（ビジネス適正診断、進路希望調査）	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ビジネス適正診断の実施　■進路希望調査票に記入
2	就職活動の準備とスタート	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
3	自分と職業を理解する（自己PR)①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
4	自分と職業を理解する（自己PR)②	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
5	面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）①	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
6	面接試験対策（自己PR、一般教養、学校生活）②	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
7	自分と職業を理解する・面接試験対策（志望動機）	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
8	情報収集・企業研究	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）を視聴 ■ワークシート記入
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■毎回ノートOPCを持参してください。

実務経験教員の経歴	専門学校での就職活動指導歴7年以上。

科目名	基礎体力トレーニングⅠ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング活動のために必要な基本的な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う				
学習目標 （到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	基礎体力トレーニングⅡ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング活動のために必要な基本的な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う				
学習目標 （到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	基礎体力トレーニングⅢ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング活動のために必要な基本的な持久力、筋力等の基礎的な体力を身に付けるために、体力・トレーニングに関連する知識を獲得し、トレーニングの実践を行う				
学習目標 （到達目標）	授業でのトレーニングや課題を通して、呼吸循環持久力、筋持久力、筋力、を付ける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ランニング＆ウォーキング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ノルディックフィットネス	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	初動負荷トレーニング	野沢温泉オリンピックパーク （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	上級救命講習	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	頸城消防署員	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ 自然ガイド・環境保全 山岳プロ ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	人工呼吸法、心肺蘇生法、AEDの使用法、止血法等の習得及び救急車到着までの応急手当の重要性を認識し、日常生活及びアウトドア活動において自主救護能力の向上を図ることを目的とする。				
学習目標（到達目標）	応急手当のやり方や流れを理解し、実践できるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講習用テキスト配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	講師紹介挨拶　重要性・必要性(DVD) 成人に対する心肺蘇生法(１人法実技) AED説明(DVD) CPR+AED(２人１組にて実施) 効果測定(筆記試験)　解説 効果測定(実技試験) 各応急手当実技(止血・骨折/小児CPR/乳児CPR) 各応急手当実技(外傷手当/搬送法・保温・熱中症/体位管理・異物除去) まとめ(質疑応答・事務連絡等)	DVD視聴、口頭・実演による講習後、人工呼吸法・心肺蘇生法・AEDの使用法・止血法等を実践。 筆記試験と実技試験を行うことにより習熟度を確認する。
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	修了証を発行するため最後に確認テストが行われます。

実務経験教員の経歴	外部講師：頸城消防署員

科目名	山岳基礎知識	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ 自然ガイド・環境保全 山岳プロ ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	用具や読図・ナビゲーション技術、気象判断などについて学び、自立した野外活動が行なえるようになるための基礎を身につけることを目的とします。また、妙高周辺の山について知り、自身の活動の幅を広げていきます。				
学習目標（到達目標）	野外での活動に関わる基本的な知識を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	パワーポイント資料使用、その他配布資料。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	登山用具の知識：個人装備、レイヤリング等 各自必要装備の洗い出し（必要装備表作成）	パワーポイント資料と登山用具を使用した学習
2	ナビゲーション技術①（地形図の読み方及び、地形図の折り方、磁北線） 基本的ロープワーク（ガイド検定内の基本の結び）	パワーポイント資料を使用した学習および実習(ロープワーク)
3	ナビゲーション技術②：現在地の同定、コンパス、バックベアリング、クロスベアリング等 ナビゲーション技術③：ナビゲーション実践	パワーポイント資料を使用した学習および実習(フィールドでの読図)
4	山での行動計画及び行程表作成（概念図） 登山計画書作成方法及び、食料計画	パワーポイント資料を使用した学習
5	火器類の使用及びメンテナンス テント組み立て方・米炊き実践	パワーポイント資料を使用した学習および実習(ガソリンストーブ・テントの使用方法と米炊き体験)
6	山の天気（天気について基本的な座学）	パワーポイント資料を使用した学習
7	登山の傷病 登山概論	パワーポイント資料を使用した学習
8	テスト　筆記 テスト　実技（ロープワーク）	授業内容全般から幅広く出題

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度及び学期末テスト・実技テストにより評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	登山だけでなく野外活動全般において、ベースになる知識・技術なので、確実に身につけ、屋外での授業や実習に不足なく取り組めるようにしてください。

実務経験教員の経歴	登山ガイド歴2年・専門学校での講師歴1年

科目名	キャンプ実習	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	田辺慎一、小野 彰太、吉田 理史	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ/自然ガイド・環境保全／山岳プロ／ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	2泊3日のキャンプ活動を通して、以下の目標および技術習得を達成しi-nacにおける野外活動の基礎を構築することを目的とする。なお、本実習は日本キャンプ協会公認キャンプインストラクター養成講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	・バックパッキングに必要な技術の習得 ・ コミュニケーション、リーダーシップの重要性を認識する ・ 現時点での自分の力量・課題を明確にする				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	山と渓谷社「ヤマケイ・テクニカルブック登山技術全書②トレッキング縦走登山」				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、アイスブレイク、目標設定、装備・食材準備、登山計画作成	講義、グループワーク（個人作業⇒グループ共有⇒全体共有）、分担作業（食材準備、装備準備）
2	実習地移動、キャンプ場オリエンテーション、テント・タープ設営、野外炊事①、ナビゲーション講習（整地、磁北線、山座同定、ストレートハイク）	講義、実地演習、振り返り・グループワーク
3	野外炊飯②、バックパッキングオリエンテーション（キャンプ場～スキー場周辺～戸隠奥社周辺）、野外炊飯③、キャンプファイヤー	実地演習、グループワーク、振り返り
4	野外炊飯④、撤収（テント・タープ、食器、清掃）、実習総括	実地演習、ふりかえり、レポート作成
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、振り返りシートによる自己評価、実習中の発表内容、実習後レポートから総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	技術習得については、振り返りシートにより自己評価及び、班内のメンバーによる他者評価を行い多角的に評価を行います。ソフト（メタ）スキルについては、活動毎に振り返りの時間を設けグループ単位で分析、一般化のプロセスを重視します。 実習の事前、事後で自らの課題を内省させ、発表させます。実習後には、レポート作成を課し、自らの課題と力量を記録として残します。

実務経験教員の経歴	小野：民間で、4年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。また、国内アウトドアメーカーでアウトドア用品の販売に2年間従事。 吉田：民間で、12年間自然体験活動の企画運営と野外教育活動の提供に従事。（公社）日本キャンプ協会指導者養成委員。

科目名	ウィルダネスファーストエイド実習	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	林 智加子		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ/自然ガイド・環境保全／山岳プロ／ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	前期 後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	各50時間
授業概要、目的、授業の進め方	緊急医療体系へと引き継ぐまでに時間のかかる状況での野外救急法を学び、さまざまな身体機能の問題や障害から引き起こされるトラブルや、野外における環境やストレスからくる怪我や体調不良に対処する応急知識・技術を習得する。なお、本実習はスリップストリームジャパンが認定するWFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定講習会を兼ねて実施される。				
学習目標（到達目標）	・WFA（Wilderness first Aid）50時間コースの認定合格。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スリップストリームジャパン「フィールドブック」 MSDマニュアル家庭版（https://www.msdmanuals.com/ja-jp/ホーム）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション、総論（学習領域、法律）、感染、包帯・三角巾、大出血、ショックと予防	講義、演習、復習（課題）
2	傷病者記録シート、骨折（頭部、背骨、胸部、骨盤、四肢）、頭部のケガ、腹部のケガ、各種対応方法、アセスメントシステム	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
3	リスクマネジメント、傷（破傷風）、火傷、日焼け、マメ、脱水症状、溺水、心臓発作、脳卒中、一酸化炭素中毒、低体温症、各種対応方法	講義、演習、ロールプレイ、復習（課題）
4	凍傷、高温障害（熱疲労、熱中症）、目・鼻のケガ、アレルギー（アナフィラキシーショック）、薬について、脱臼、シナリオトレーニング	講義、演習、ロールプレイ
5	筆記テスト、搬送方法、シナリオトレーニング、総括、結果発表	演習、ロールプレイ
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、筆記試験（マークシート）、実地演習の内容、講習認定の合否など総合的に評価。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	講習は50時間の履修が必須となります。実習中、遅刻、早退、欠席には留意し自己管理を行うこと。 実習ガイダンスで告知される事前学習、準備物を全て確認し取り組むこと。知識が不足している場合、実習に参加できない可能性もあります。また、実習中課された復習課題にも積極的に取り組むこと。

実務経験教員の経歴	スリップストリームジャパン公認インストラクター。登山ツアーSoleil代表。 日本山岳ガイド協会登山＆スキーガイド　ステージⅡ、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者 レベル2 を有し、2014年よりガイド業、講習会講師を務める。

科目名	スポーツ栄養学	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	×		
対象学科	山岳プロ／クライミングインストラクター学科／野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	「スポーツ栄養学」という言葉が生まれたのはごく最近のことです。言葉の通り、一般の人が普段の生活で必要となる食事とスポーツの分野でトップを目指すための食事は全く別のものと言っても過言ではありません。本授業では自分自身の食生活の振り返りと改善策を見つけることを目標とします。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	基礎から学ぶ！　スポーツ栄養学（ベースボールマガジン社）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	栄養素と食品の基礎知識 ① エネルギーになる栄養素 （炭水化物、脂質、タンパク質）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
2	栄養素と食品の基礎知識 ② 身体をつくる栄養素 （タンパク質、ミネラル）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
3	栄養素と食品の基礎知識 ③ 身体のコンディションを調整する栄養素（ビタミン、水）	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
4	身体のしくみ　～消化のしくみ、代謝・吸収のしくみ～	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
5	エネルギー代謝のしくみ	テキスト、動画、（持ち物）筆記道具
6	コンディショニングのための食事① ～アスリートにとっての食事とは～	テキスト、動画、コンビニ製品、プロテインパウダー （持ち物）筆記道具
7	コンディショニングのための食事② ～アスリートに必要な栄養素摂取とは～	テキスト、動画、スポーツドリンク、 （持ち物）筆記道具
8	コンディショニングのための食事 ～競技力向上のための栄養摂取～	テキスト、動画、サプリメント、医薬品 （持ち物）筆記道具

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40％、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、食事は毎日の事です。また競技力向上のためにはトレーニング・休養と同じようにきちんとした栄養摂取が必要となります。栄養素と食品の基本的な知識から、勝つためのスポーツ栄養学を学んでいきます。

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	スポーツ生理学	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ／クライミングインストラクター学科／野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	運動生理学は、運動によって身体にどのような変化が応じるのか、その現象と仕組みについての基礎を理解する学問である。運動中（活動中）に身体の内部がどのような生理学的変化をするのかを学び、運動生理学の知識を身につけることで、体力の向上・健康の維持・増進のための方法について理解する。				
学習目標（到達目標）	相互関係にある基礎体力トレーニング実技で当授業での実践を行い、理論を理解している上で各体力要素が向上しているか定期的に測定、判断する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	登山の運動生理学百科、A cross-country skier's training based on exercise physiology				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	**運動生理学とは？（筋線維タイプについて（あなたはマグロ系？鯛系？それとも、、、））**	**テキスト、動画、（持ち物）筆記道具**
2	筋力について（**マッチョなボディビルダーは、マラソンが走れるか？？**）	**テキスト、動画、（持ち物）筆記道具**
3	エネルギー代謝とエネルギー供給系	**テキスト、動画、（持ち物）筆記道具**
4	①持久力とは？呼吸循環系の持久力（**心拍で運動コントロール**）	**テキスト、動画、実技、心拍計にて実施（持ち物）筆記道具**
5	**②持久力とは？筋持久力（登山しよう！トレランしよう！山は天然トレーニングジム）**	**テキスト、動画、実技、心拍計にて実施（持ち物）筆記道具**
6	効果的な持久トレーニング（**最新!!ノルディックフィットネス**）神経について（ **神経が筋肉を司る**）	**テキスト、動画、実技、ノルディックポールにて実施　（持ち物）筆記道具**
7	成長過程で考えるトレーニング（**継続は力なり！でもやみくもにやってもねぇ、、、**）	**テキスト、動画、実技　トレーニングルームにて実施（持ち物）筆記道具**
8	登山と疲労。登山と体力トレーニング。（**山が好きな人はとっても大事**）	**テキスト、動画、**

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	筆記用具、時計

実務経験教員の経歴	各自治体、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	トレーニング法	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	スポーツ生理学に基づき、筋力トレーニングの具体的方法やコンディショニングトレーニング、大会に向けてのピーキングなどの理論と実践を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	トレーニング日誌、トレーニング計画表を作成できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	トレーニングの五原則	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	トレーニング計画作成と実践（筋力トレーニング）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	トレーニング計画作と実践（有酸素トレーニング）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	トレーニング計画作成と実践（コンディショニング）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	トレーニング計画作成と実践（ストレッチング）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	トレーニング計画作成と実践（ストレッチンポール）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	トレーニング計画作成と実践（初動負荷理論）	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	トレーニング計画作成　まとめ	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	スポーツ研究	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	×		
対象学科	クライミングインストラクター	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	自分が興味を持って調べ、まとめ、人に伝える（発表する）ことは、自分をさらけだすことでもあります。社会に出ると、アイデア立案、企画作成、業務運営等の様々な場面で、意見を求められたり、考えをまとめ伝えるなど、「自分」を相手にさらけだす（伝える、表現する）機会が数多くやってきます。【目的】卒業研究では、自ら気づき、調べ、まとめたものを最終的に卒業論文や発表会でのプレゼンとして完成させる。				
学習目標（到達目標）	卒業研究を進める過程を通し、自分が暮らす現実社会や仕事として携わる業界に関する問題・課題を見つけ出し、現状を調査し、解決策・改善策・将来ビジョンを提示する基本的なスキルを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション（卒業研究の概要）、テーマの決定	■ノートPC持参
2	テーマの決定、研究計画の作成・発表、調査・制作活動１（教員が個別に対応する）	■ノートPC持参
3	調査・制作活動２（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
4	調査・制作活動３（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
5	調査・制作活動４（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
6	調査・制作活動５（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
7	調査・制作活動6（教員が個別に対応する）、中間発表準備	■ノートPC持参
8	中間発表	■ノートPC持参
9	調査・制作活動7（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
10	調査・制作活動8（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
11	調査・制作活動9（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
12	調査・制作活動10（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
13	調査・制作活動11（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
14	調査・制作活動12（教員が個別に対応する）	各自の研究テーマ、方法により、個別に調査・研究活動
15	発表用資料（pptファイル）の作成・準備	■ノートPC持参
16	発表練習（発表時間：発表12分＋質疑応答3分/人）	■ノートPC持参

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、卒業研究への取組み、卒業研究の内容・完成度および発表会でのプレゼン能力等で総合的に評価 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■卒業研究発表会で発表します ■卒研は、「自分の力」でやり遂げることがもっとも大切です。もちろん、わからないことはどんどん聞いて下さい。アドバイスを得ながら作業を進めることも、期限内に卒論（仕事）を完成させる「自分の力」の重要な要素だからです。時間的、労力的、精神的にきつい時があるかと思いますが、皆に見せたい論文、皆に聞かせたい発表を作り上げてください。

実務経験教員の経歴	

科目名	体力測定・評価	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力測定を行い、日ごろのトレーニング成果を確認すると共に、各体力要素の優れている点、改善点を理解する。				
学習目標 （到達目標）	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力トレーニングの成果を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】柔軟性・関節可動域・持久力測定	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	【2日目】筋力測定　結果確認フィードバック	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	体力測定・評価Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力測定を行い、日ごろのトレーニング成果を確認すると共に、各体力要素の優れている点、改善点を理解する。				
学習目標 （到達目標）	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力トレーニングの成果を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】柔軟性・関節可動域・持久力測定	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	【2日目】筋力測定　結果確認フィードバック	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	体力測定・評価Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力測定を行い、日ごろのトレーニング成果を確認すると共に、各体力要素の優れている点、改善点を理解する。				
学習目標 （到達目標）	筋力・筋柔軟性、関節可動域、持久力トレーニングの成果を理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】柔軟性・関節可動域・持久力測定	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	【2日目】筋力測定　結果確認フィードバック	トレーニングルーム・フィットネスルーム・有酸素ルーム （持ち物）ランニングシューズ、上履き、タオル、着替え、飲み物
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での講義経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	クライミングトレーニングⅠ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	丸木太	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上を中心としたトレーニングを行う。 またコンペ等で上位入賞を目指すためのトレーニングも行う。				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル ・新潟県クライミング選手権大会や各コンペにて上位を狙えるレベルを目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミングトレーニングⅡ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	128
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上を中心としたトレーニングを行う。 またコンペ等で上位入賞を目指すためのトレーニングも行う。				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル ・新潟県クライミング選手権大会や各コンペにて上位を狙えるレベルを目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミングトレーニングⅢ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	128
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上を中心としたトレーニングを行う。 またコンペ等で上位入賞を目指すためのトレーニングも行う。				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル ・新潟県クライミング選手権大会や各コンペにて上位を狙えるレベルを目指す				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	クライミングトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	クライミングトレーニング　成果確認　フィードバック	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	プログラム企画運営Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	×		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング子ども体験教室の企画運営を通して、マネジメント能力を身につける。同時に企画運営のノウハウを学ぶ事でより現場に近い職業観を身につける				
学習目標 （到達目標）	クライミング子ども体験教室の企画運営を行う。（年間2回）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
2	第1回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
3	第１回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
4	第１回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
5	第１回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
6	第１回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
7	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
8	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
9	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
10	第２回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
11	第２回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
12	第２回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
13	第２回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
14	第２回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
15	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
16	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での実務経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	プログラム企画運営Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋	実務授業の有無	×		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング子ども体験教室の企画運営を通して、マネジメント能力を身につける。同時に企画運営のノウハウを学ぶ事でより現場に近い職業観を身につける				
学習目標 （到達目標）	クライミング子ども体験教室の企画運営を行う。（年間2回）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
2	第1回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
3	第１回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
4	第１回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
5	第１回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
6	第１回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
7	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
8	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
9	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
10	第２回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
11	第２回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
12	第２回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
13	第２回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
14	第２回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
15	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
16	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での実務経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	プログラム企画運営Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	服部正秋		実務授業の有無	×	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	クライミング子ども体験教室の企画運営を通して、マネジメント能力を身につける。同時に企画運営のノウハウを学ぶ事でより現場に近い職業観を身につける				
学習目標 （到達目標）	クライミング子ども体験教室の企画運営を行う。（年間2回）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
2	第1回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
3	第１回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
4	第１回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
5	第１回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
6	第１回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
7	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
8	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
9	オリエンテーション	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
10	第２回目クライミング教室　役割分担決定　コンセプト	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
11	第２回目クライミング教室　ルートセット作り	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
12	第２回目クライミング教室　課題確認調整	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
13	第２回目クライミング教室　リハーサル	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
14	第２回目クライミング教室　実施	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
15	まとめ、振り返り、メンテナンス	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式
16	ウォールメンテナンス、	パソコン、筆記用具、クライミング用具一式

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	・雨が降らなければ屋外でのトレーニングを行います。動きやすい服装、シューズで出席してください。また雨天時は室内でのトレーニングを行うため室内シューズが必要になります。ケガ等でできない場合は前日までに申し出るようにお願いします。

実務経験教員の経歴	各自治体、フィットネスジム、スポーツクラブ等での実務経歴10年、当授業実務経歴7年

科目名	クライミングテクニックⅠ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	奥村晃史、丸木太　他	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指す				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	クライミングテクニックⅡ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	奥村晃史、丸木太　他	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指す				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	クライミングテクニックⅢ	授業形態	対面形式	授業の方法	実技
担当教員	奥村晃史、丸木太　他	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	256
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指す				
学習目標 （到達目標）	・3年次にクライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	特になし				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	オリエンテーション	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
7	ロープワーク及びトレーニング	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
8	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
9	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
10	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
11	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
12	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
13	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
14	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
15	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
16	メンテナンス実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候により屋内・屋外にて行います。また、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。特に外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	クライミング春合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太／外部講師／服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ クライミングインストラクター 野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	日本を代表するクライミングの岩場で、さまざまな種類の課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。内容としてはショートルート、ボルダリング、マルチピッチクライミングを実施するが、1年生は自然の岩場でのクライミングに慣れること、基本的な安全管理ができるようになることを目的とする。クライミングコースは外岩でのクライミング能力を高めることはもちろん、ロープワーク・支点構築等、外岩での安全管理を確実にし、ガイドとしてのトレーニング経験を積む。				
学習目標（到達目標）	マルチピッチクライミングの理解・実施（安全管理含）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	【団体装備】クライミングロープ　シングルロープ、スリング、カラビナの予備、幕営用具（テント一式、テントマットなど）、炊事用具（ストーブ、燃料､コッフェル大）、ボルダーマット（クラッシュパッド） 【個人装備】クライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等）、テント泊個人装備（シュラフ、個人用マットなど）、着替え（防寒具含）、雨具、食料（朝２食分、夕２食分、予備食）、行動食（昼食3食分）、食事（実習期間の朝食、夕食は各自で準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】　i-nac出発　～小川山 ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	担当：丸木太、伊藤裕貴、外部講師 ※小川山は、ベースキャンプで標高1,600m。寒いことが予想されます。
2	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
3	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ	
4	小川山～　　i-nac解散	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	予習・実践・復習

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング春合宿Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太／外部講師／服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	山岳プロ クライミングインストラクター 野外教育・アウトドアスポーツ	対象学年	3年生	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	日本を代表するクライミングの岩場で、さまざまな種類の課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。内容としてはショートルート、ボルダリング、マルチピッチクライミングを実施するが、1年生は自然の岩場でのクライミングに慣れること、基本的な安全管理ができるようになることを目的とする。クライミングコースは外岩でのクライミング能力を高めることはもちろん、ロープワーク・支点構築等、外岩での安全管理を確実にし、ガイドとしてのトレーニング経験を積む。				
学習目標（到達目標）	マルチピッチクライミングの理解・実施（安全管理含）　1年生への安全管理（サポート）				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	【団体装備】クライミングロープ　シングルロープ、スリング、カラビナの予備、幕営用具（テント一式、テントマットなど）、炊事用具（ストーブ、燃料､コッフェル大）、ボルダーマット（クラッシュパッド） 【個人装備】クライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等）、テント泊個人装備（シュラフ、個人用マットなど）、着替え（防寒具含）、雨具、食料（朝２食分、夕２食分、予備食）、行動食（昼食3食分）、食事（実習期間の朝食、夕食は各自で準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】　i-nac出発　～小川山 ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	担当：丸木太、伊藤裕貴、外部講師 ※小川山は、ベースキャンプで標高1,600m。寒いことが予想されます。
2	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
3	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ 小川山～　　i-nac解散	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	予習・実践・復習

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング秋合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太／外部講師／服部正秋	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミングインストラクター	対象学年	Ⅰ年生	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指す				
学習目標（到達目標）	安全管理				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	【団体装備】クライミングロープ　シングルロープ、スリング、カラビナの予備、幕営用具（テント一式、テントマットなど）、炊事用具（ストーブ、燃料､コッフェル大）、ボルダーマット（クラッシュパッド） 【個人装備】クライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等）、テント泊個人装備（シュラフ、個人用マットなど）、着替え（防寒具含）、雨具、食料（朝２食分、夕２食分、予備食）、行動食（昼食3食分）、食事（実習期間の朝食、夕食は各自で準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ロープワーク及び安全管理	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地（持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	安全管理及び応急処置	
3	ルートセット実践	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果物40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	予習・実践・復習

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	岩場整備実習Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	フリークライミングの岩場は、先人の情熱と努力によって開拓され、支点の設置・整備、地元の方々との交流による理解の醸成など、たくさんの労力によって支えられているものです。私たちはその恩恵にあずかり、個性様々な素晴らしい課題に取り組む機会を得ていますが、クライミングに関わる世界で生きていくことを志す者として、様々な先人たちの努力に敬意を払い、また次の世代にその課題を継承していくために、岩場がどのように守られているかを学んでいきたいと思います。 当実習では、岩場整備の方法を知り、実践するとともに、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得ることを目的とします。				
学習目標 （到達目標）	岩場整備の方法を知り、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　甲信越・関東』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	岩場下見、作業・整備方法について	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2	支点打ち替えなど整備実践　ルート課題	
3	岩場整備、ルート課題	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	岩場整備実習Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	フリークライミングの岩場は、先人の情熱と努力によって開拓され、支点の設置・整備、地元の方々との交流による理解の醸成など、たくさんの労力によって支えられているものです。私たちはその恩恵にあずかり、個性様々な素晴らしい課題に取り組む機会を得ていますが、クライミングに関わる世界で生きていくことを志す者として、様々な先人たちの努力に敬意を払い、また次の世代にその課題を継承していくために、岩場がどのように守られているかを学んでいきたいと思います。 当実習では、岩場整備の方法を知り、実践するとともに、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得ることを目的とします。				
学習目標 （到達目標）	岩場整備の方法を知り、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　甲信越・関東』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	岩場下見、作業・整備方法について	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2	支点打ち替えなど整備実践　ルート課題	
3	岩場整備、ルート課題	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	岩場整備実習Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	フリークライミングの岩場は、先人の情熱と努力によって開拓され、支点の設置・整備、地元の方々との交流による理解の醸成など、たくさんの労力によって支えられているものです。私たちはその恩恵にあずかり、個性様々な素晴らしい課題に取り組む機会を得ていますが、クライミングに関わる世界で生きていくことを志す者として、様々な先人たちの努力に敬意を払い、また次の世代にその課題を継承していくために、岩場がどのように守られているかを学んでいきたいと思います。 当実習では、岩場整備の方法を知り、実践するとともに、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得ることを目的とします。				
学習目標 （到達目標）	岩場整備の方法を知り、クライマーとして理解しておいてほしい最低限の認識を得る				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　甲信越・関東』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	岩場下見、作業・整備方法について	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2	支点打ち替えなど整備実践　ルート課題	
3	岩場整備、ルート課題	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	ルートセット講習Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	丸木太/奥村晃史/飯山健治		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	コンペでのルートセット、体験会やイベントでのルートセットなど状況に応じて適正なグレード判断とセットができることを目指す。またルートセットを行うにあたり道具やその取扱い方、手順を理解する。				
学習目標 （到達目標）	ルートの適正なグレード判断とセット能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ルートセットについて、道具、取扱い方、手順	学校ウォール、クライミング用具一式
2	ルートセット実践（ボルダー）	学校ウォール、クライミング用具一式
3	ルートセット実践（ボルダー）グレード判断	学校ウォール、クライミング用具一式
4	ルートセット実践（リード壁）	学校ウォール、クライミング用具一式
5	ルートセット実践（リード壁）グレード判断　振り返り	学校ウォール、クライミング用具一式
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	ルートセット講習Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	丸木太/奥村晃史/飯山健治		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	コンペでのルートセット、体験会やイベントでのルートセットなど状況に応じて適正なグレード判断とセットができることを目指す。またルートセットを行うにあたり道具やその取扱い方、手順を理解する。				
学習目標 （到達目標）	ルートの適正なグレード判断とセット能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ルートセットについて、道具、取扱い方、手順	学校ウォール、クライミング用具一式
2	ルートセット実践（ボルダー）	学校ウォール、クライミング用具一式
3	ルートセット実践（ボルダー）グレード判断	学校ウォール、クライミング用具一式
4	ルートセット実践（リード壁）	学校ウォール、クライミング用具一式
5	ルートセット実践（リード壁）グレード判断　振り返り	学校ウォール、クライミング用具一式
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	ルートセット講習Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	演習
担当教員	丸木太/奥村晃史/飯山健治		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	コンペでのルートセット、体験会やイベントでのルートセットなど状況に応じて適正なグレード判断とセットができることを目指す。またルートセットを行うにあたり道具やその取扱い方、手順を理解する。				
学習目標 （到達目標）	ルートの適正なグレード判断とセット能力を身につける				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ルートセットについて、道具、取扱い方、手順	学校ウォール、クライミング用具一式
2	ルートセット実践（ボルダー）	学校ウォール、クライミング用具一式
3	ルートセット実践（ボルダー）グレード判断	学校ウォール、クライミング用具一式
4	ルートセット実践（リード壁）	学校ウォール、クライミング用具一式
5	ルートセット実践（リード壁）グレード判断　振り返り	学校ウォール、クライミング用具一式
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング強化合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	・自己の目標グレードを目指して、集中的に外岩でのトレーニングを行う。 ・日本各地の様々な岩場にチャレンジすることで、クライミングの視野を広めると共に、他のクライマーとの交流も図る。 ・講師より、様々な状況下でのロープワーク・支点構築等の技術を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	自己のグレード更新と日本各地の岩場の特徴を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】　i-nac出発～外岩（各地） ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具
2	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
3	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ	
4	外岩現地～i-nac解散	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング強化合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	・自己の目標グレードを目指して、集中的に外岩でのトレーニングを行う。 ・日本各地の様々な岩場にチャレンジすることで、クライミングの視野を広めると共に、他のクライマーとの交流も図る。 ・講師より、様々な状況下でのロープワーク・支点構築等の技術を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	自己のグレード更新と日本各地の岩場の特徴を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】　i-nac出発～外岩（各地） ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具
2	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
3	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ	
4	外岩現地～i-nac解散	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング強化合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	丸木太	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	・自己の目標グレードを目指して、集中的に外岩でのトレーニングを行う。 ・日本各地の様々な岩場にチャレンジすることで、クライミングの視野を広めると共に、他のクライマーとの交流も図る。 ・講師より、様々な状況下でのロープワーク・支点構築等の技術を学ぶ。				
学習目標 （到達目標）	自己のグレード更新と日本各地の岩場の特徴を学ぶ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	【1日目】　i-nac出発～外岩（各地） ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □ドリル等　整備のための用具 □作業用クライミングロープ. 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具
2	【2日目】ショートルートクライミング中心に実践及び懸垂復習 マルチピッチクライミング基礎	
3	【3日目】ショートルート、ボルダリング、マルチピッチ	
4	外岩現地～i-nac解散	
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	ウォールメンテナンス実習Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	飯山健治		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	ウォールのメンテナンス方法、ホールドの洗浄など学ぶ。同時にメンテナンスに必要な道具や取扱い方法を理解する				
学習目標 （到達目標）	メンテナンス道具の理解とその取扱い方。ウォール・ホールドのメンテナンスの理解				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	メンテナンス方法について、道具の紹介、取扱い方	学校ウォール、クライミング用具一式、メンテナンス用具、筆記用具
2	ウォールメンテナンス実践	
3	ホールド洗浄など	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	ウォールメンテナンス実習Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	飯山健治		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	ウォールのメンテナンス方法、ホールドの洗浄など学ぶ。同時にメンテナンスに必要な道具や取扱い方法を理解する				
学習目標 （到達目標）	メンテナンス道具の理解とその取扱い方。ウォール・ホールドのメンテナンスの理解				
テキスト・教材・参考図書・その他資料					

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	メンテナンス方法について、道具の紹介、取扱い方	学校ウォール、クライミング用具一式、メンテナンス用具、筆記用具
2	ウォールメンテナンス実践	
3	ホールド洗浄など	
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40％、出席20％ 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上

科目名	クライミング冬合宿Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	奥村晃史		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	城ヶ崎、城山などの日本を代表する岩場で、さまざまな課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。 内容としては、ナチュラルプロテクションを使ったクライミングを実施するが、登る以外に岩場の問題点などにも目を向け学習する意識での受講を望む。 それぞれの達成目標を頭に入れ、積極的な姿勢でクライミングに取り組むこと。また、すでに学んでいるロープワークや終了点など、総合的にクライミングへの理解を再確認する意識での参加を望む。				
学習目標 （到達目標）	ナチュラルプロテクションを使ったクライミングの理解　岩場の問題点の理解				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（1日目）　クラック講習　クラック技術（ジャミング他） （2日目）NP＆クラック講習　主にNP技術 （3日目）マルチピッチ講習　ロープワーク、アンカー構築、下降技術など	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □カム・ナッツ 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴20年以上

科目名	クライミング冬合宿Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	奥村晃史		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	城ヶ崎、城山などの日本を代表する岩場で、さまざまな課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。 内容としては、ナチュラルプロテクションを使ったクライミングを実施するが、登る以外に岩場の問題点などにも目を向け学習する意識での受講を望む。 それぞれの達成目標を頭に入れ、積極的な姿勢でクライミングに取り組むこと。また、すでに学んでいるロープワークや終了点など、総合的にクライミングへの理解を再確認する意識での参加を望む。				
学習目標 （到達目標）	ナチュラルプロテクションを使ったクライミングの理解　岩場の問題点の理解				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（1日目）　クラック講習　クラック技術（ジャミング他） （2日目）NP＆クラック講習　主にNP技術 （3日目）マルチピッチ講習　ロープワーク、アンカー構築、下降技術など	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □カム・ナッツ 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴20年以上

科目名	クライミング冬合宿Ⅲ	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	奥村晃史	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	24
授業概要、目的、授業の進め方	城ヶ崎、城山などの日本を代表する岩場で、さまざまな課題にチャレンジし、クライミング能力を高める。 内容としては、ナチュラルプロテクションを使ったクライミングを実施するが、登る以外に岩場の問題点などにも目を向け学習する意識での受講を望む。 それぞれの達成目標を頭に入れ、積極的な姿勢でクライミングに取り組むこと。また、すでに学んでいるロープワークや終了点など、総合的にクライミングへの理解を再確認する意識での参加を望む。				
学習目標 （到達目標）	ナチュラルプロテクションを使ったクライミングの理解　岩場の問題点の理解				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	『日本１００岩場　』山と溪谷社				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	（1日目）　クラック講習　クラック技術（ジャミング他） （2日目）NP＆クラック講習　主にNP技術 （3日目）マルチピッチ講習　ロープワーク、アンカー構築、下降技術など	団体装備 □クライミングロープ □スリング、カラビナの予備 □ヘルメット □カム・ナッツ 個人装備 □☒ライミング用具一式（ハーネス、環付カラビナ、ヌンチャク、カラビナ、スリング、ビレイ器、クライミングシューズ等） □☒替え（防寒具含）・雨具 □☒動食（昼食3食分）、水筒など
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴20年以上

科目名	フリークライミングインストラクター	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	奥村晃史/笹倉孝昭	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指し、インストラクター合格を目指す				
学習目標 （到達目標）	・クライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	フリークライミングインストラクター教本　山のファーストエイド教本				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	フリークライミングインストラクター	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	奥村晃史/笹倉孝昭	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指し、インストラクター合格を目指す				
学習目標 （到達目標）	・クライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	フリークライミングインストラクター教本　山のファーストエイド教本				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	フリークライミングインストラクター検定対策実習	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	奥村晃史/笹倉孝昭		実務授業の有無	○	
対象学科	クライミング インストラクター	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	40
授業概要、目的、授業の進め方	クライミングインストラクターに求められる、登攀力、登攀技術の向上はもとより、安全管理、応急処置、ロープワーク、インストラクション能力、ルートセット、メンテナンスなど多岐にわたり求められるクライミング能力全般の向上を目指し、インストラクター合格を目指す				
学習目標 （到達目標）	・クライミングインストラクター（インドア）資格の受験資格をクリアできるレベル				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	フリークライミングインストラクター教本　山のファーストエイド教本				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	クライミングインストラクターの役割とその重要性	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
2	インストラクターとは	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
3	ロープワーク実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
4	安全管理及び応急処置	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
5	ルートセット実践	学校ウォール、トレーニングルーム、外岩（各地域） （持ち物）クライミング道具一式、上履き、タオル、着替え、飲み物
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	天候、習熟度、体力レベル、技術に応じて内容・場所を適時検討します。外岩へ出かける場合は移動時間等もありますので、集合時間、帰校時間がその都度違いますので事前に確認をすること。

実務経験教員の経歴	講師の各クライミングジム、クライミング体験教室等での実務指導歴10年以上、 日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター協会代表/特別委員/検定員

科目名	インターンシップ実習	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	服部正秋/受入企業・団体	実務授業の有無	○		
対象学科	クライミング	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	112時間
授業概要、目的、授業の進め方	「インターンシップ実習」では、自らの専攻、将来のキャリアに関連する就業体験を行います。目的は次の4点です。①学習意欲の向上と学習目的の明確化、②高い職業意識を持った職業人の養成、③専門分野での実務能力の向上、④アウトドア業界クライミング業界における人的ネットワークの構築				
学習目標（到達目標）	①実際のビジネス現場での体験を通じて、自分の適性を確認できる。 ②アウトドア業界クライミング業界における就業体験を通し、業界理解を深め、進路選択に役立てることができる。 ③社会人としての挨拶、マナーの重要性を理解できる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■インターンシップ実習の手引き、■学生調書　■志望動機書　■その他配布資料				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	インターンシップガイダンス、受入先の希望調査	希望調査シートに第3希望まで記入し、担当教員に提出。
2	受入先の決定、学生調書、インターンシップ動機書の作成・提出	学生調書（excel）、動機書（word）をメールで担当教員に提出、教員が校閲後返却。完成後、受入先に提出。
3	受入先への連絡（挨拶、訪問日時・持ち物等の問合せなど）	学生自身が受入担当者に電話連絡
4	受入先における研修（7月下旬から9月中旬の期間で実働15日以上）	研修期間中、毎日、インターンシップ日誌に記入し、受入先担当者に提出。
5	研修後、インターンシップ報告書を作成。	報告書（powerpoint）を担当教員に提出。後期オリエンテーションの学科別活動で発表。
6		
7		
8		
9		
10		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、インターンシップ日誌の内容（業務遂行レベル）、インターンシップ報告書の内容、報告会での発表、受入先担当者による成績評価等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	■事前に必ず傷害保険およびインターンシップ活動賠償責任保険に加入すること。 ■研修期間：実働15日間以上を確保すること ■研修中、毎日日誌を作成し、受入先担当者に提出、確認印をもらうこと。インターンシップ終了後、全日誌を教員に提出 ■事後報告書（powerpoint）の提出 ■受入先では人に接する態度、言葉遣いなどの基本的なマナーや、服装・身だしなみ等に気を配ること。 ■無断欠席や遅刻は厳禁である。

実務経験教員の経歴	インターンシップ受入先企業・団体の担当スタッフによる。

科目名	ホームルーム	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	斎藤達也	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションを通し、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕のマインドを養う。 ③学科別オリテ、海外研修オリテ、特別授業等を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾞｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	

科目名	ホームルーム	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	松井茂		実務授業の有無	×	
対象学科	全学科	対象学年	2	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	①実践行動学の授業を通して、自己理解、他者理解、コミュニケーション力を向上する。 ②実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ③学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ④学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴10年以上。

科目名	ホームルーム	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	田辺慎一	実務授業の有無	×		
対象学科	全学科	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	①実習、学校行事等のオリエンテーションにより、カリキュラムにおける実習等の体系的な位置づけを理解する。 ②学内共同作業として、マテリアルルームの学校備品チェック、校舎清掃を行ない、公共奉仕を養う。 ③学科別活動を通して、業界や専門性の理解、進路の明確化を促す。				
学習目標（到達目標）	学科・学年間の学生間交流や共有物利用のルール順守、進路面談等を通して、自立した人間として生活できるようになる				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	資料（実習実施要項など）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	海外研修オリエンテーション（406/407）	12月に実施する海外研修のガイダンス、参加希望調査
2	学科別HR①（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
3	実習オリエンテーション（5月、6月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
4	学科別HR②（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
5	学科別HR③（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
6	学科別HR④（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
7	実習オリエンテーション（7月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
8	学科別HR⑤（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
9	学科別HR⑥（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
10	実習オリエンテーション（11月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
11	学科別HR⑦（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
12	学科別HR⑧（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
13	就職研修オリエンテーション	12月に実施する就職研修のガイダンス
14	学科別HR⑨（MP→406／407　OES→409　NGC→408）	学科別に分かれ、指定の教室で活動
15	実習オリエンテーション（1月分）	履修する実習別にガイダンスを受講
16	就職状況報告会	3年生が就職活動状況を発表

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	学科別活動：山岳プロ学科（MP）、野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ学科（OES）、自然ガイド・環境保全学科（NGC）

実務経験教員の経歴	国際自然環境アウトドア専門学校での担任歴7年以上。

科目名	特別授業	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	山岳プロ/野外教育・アウトドアスポーツ/自然ガイド・環境保全/キャンプビジネス	対象学年	1，2，3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人　としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を牽引している方からの講演	講演形式、筆記用具、
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80%未満の場合、原則として成績評価は行わない。 学習意欲40%、成果40%、出席20% 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	特別授業	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演	講演形式、筆記用具、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	特別授業	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	外部講師		実務授業の有無	○	
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	8時間
授業概要、目的、授業の進め方	① 外部講師の講演を受講し、業界の仕事内容や専門スキル、人材ニーズを理解するとともに、社会人としての心構えを学ぶ ② インターンシップや就職活動に向けたモチベーションの向上を図る ③ 夏季休暇を有意義に過ごすための意識付けを図る				
学習目標（到達目標）	業界が求めるニーズ（人間性、技術、知識）を理解し、 授業内容やインターンシップの必要性を再確認する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	テキスト（外部講師準備）				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	各業界における先駆者や業界を開拓している方からの講演	講演形式、筆記用具、

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率と授業態度により評価を行う。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、優(80点以上)・良(70点以上)・可(60点以上)・不可(59点以下)とする。	

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義経験あり。

科目名	海外研修	授業形態	対面形式	授業の方法	実習
担当教員	斎藤達也	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	1	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	80時間
授業概要、目的、授業の進め方	外国人旅行者への対応能力の向上と、海外における先進的なエコツーリズム・アウトドア・クライミング業界の動きを学ぶため、7～10日程度の海外研修を実施する。研修中はインストラクターが帯同し、滞在国における学びや生活の支援を頂きつつ、アウトドア・クライミング施設や自然公園等をご案内頂く。2019年度はアメリカ合衆国ボーズマンおよびイエローストーン国立公園で研修を行う。				
学習目標（到達目標）	①英語によるコミュニケーション能力の向上 ②海外でのアウトドア・環境保全・クライミングの流れについて自分なりの考え方をもつ				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	海外旅行や研修先の国に関する書籍（地球の歩き方等）を各自読んでおくこと。				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	1～2日目：移動（成田/羽田⇒ボーズマン） 3日目～ ・オオカミなどの観察や野生動物の生態系についての学習 ・アメリカの国立公園における野生動物の保護管理についての学習 ・ボーズマンのスキー場における雪崩管理、スキーパトロールについての学習 ・クライミングジムの管理運営等についての学習 ・地元の方との英語コミュニケーション （内容と研修日数は年により変動） 最終日：移動（ボーズマン⇒成田/羽田）	学習方法は以下の通り。 ・地元のガイド・インストラクターからのインタープリテーションを受講 ・日本国内の自然についての英語によるインタープリテーションの実践 ・グループワーク・ディスカッション ・英語による地元の方とのコミュニケーション

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席、生活態度、イベントへの参加姿勢、協調性、研修後のレポートの完成度から総合的に評価します。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	海外研修では集団活動がメインとなり、日本と研修先の国家では文化や常識も異なります。協調性をもち、慎重に行動してください。また、英語でのコミュニケーション能力を向上させる機会ですので、積極的なイベントへの参加が求められます。

実務経験教員の経歴	

科目名	就職準備研修Ⅰ	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	吉田美栄	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/キャンプビジネス	対象学年	1	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	実践行動学のテキストを通して、他者との関わりの中で自分自身について振り返る。また、社会におけるコミュニケーションの重要性を理解する。				
学習目標（到達目標）	Part1　学校生活のスタートラインに立っている時期に過去の時分を振り返り、また現在・近未来の時分について考えることを通して短期目標を設定する。 Part2　入学後から現在までを振り返り、自らの成長の足跡を確認する。そのうえで、自己の潜在的能力や可能性を引き出すための考え方や意識の持ち方に気づきを与えるとともに、自立に向けた技術・方策を提供する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学研究所　夢実現のための実践行動学				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	Part1　意欲的な心構え マジックドア1　夢と目標 マジックドア2　夢を喰うバク…「誤った思い込み」と「言い訳」 マジックドア3　自分への信頼を取り戻すために その1　行動のよりどころと心構え マジックドア4　自分への信頼を取り戻すために その2　まず第一歩を マジックドア5　目標を設定しよう	テキスト読み合わせ・グループワーク
2	Part2　自分の可能性を広げよう マジックドア1　プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる マジックドア2　考え方を変えれば行動が変わる マジックドア3　あなたの問題は、あなたが解決できる マジックドア4　あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう マジックドア5　目標が才能・可能性を開花させる	テキスト読み合わせ・グループワーク

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	自分と向き合うと同時に、他者の考えに触れられる貴重な時間です。意欲的に取り組んでください。

実務経験教員の経歴	

科目名	就職準備研修Ⅱ	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	小野彰太	実務授業の有無	×		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ/自然ガイド・環境保全/山岳プロ/ｸﾗｲﾐﾝｸﾞｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	就職活動に対しての心構えを持ち、面接試験対策、特に集団面接のための技術を習得する。				
学習目標（到達目標）	就職活動のプロセスを理解し、主体的に就職活動を進めることができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	■動画で学ぶ就活ナビ（eラーニング教材）■模擬面接質問内容　■面接入退室資料　■ 模擬面接スケジュール表　■グループ面接名簿　■面接評定表　■進路希望調査　■その他資料（ワークシート）を適宜配布				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	個人面接_模擬面接の実施 ＊15分程度（フィードバック含む）/人	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、個人面接の実施
2	集団面接_模擬面接の実施 ＊10分間/人の面接とフィードバックで50分～1時間程度	■模擬面接質問内容への返答内容を作成 ■模擬面接のスケジュール、手順に沿って、集団面接の実施

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。

実務経験教員の経歴	専門学校での就職活動指導歴10年以上。

科目名	ビジネスマナー研修	授業形態	対面形式	授業の方法	講義
担当教員	外部講師	実務授業の有無	○		
対象学科	野外教育・ｱｳﾄﾄﾞｱｽﾎﾟｰﾂ 自然ガイド・環境保全 山岳プロ ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	社会人としての心構えを持ち、基礎的なビジネスマナーを習得する。				
学習目標（到達目標）	社会人としての心構え、ビジネスマナー、税金、納税のしくみ等を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	・筆記用具・スーツ・テキスト（講師準備）・名刺入れ				

回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考
1	ビジネスマナー研修（基本的ビジネスマナーと実践）	外部講師講義　ミワアシスタンス
2	ビジネスマナー研修（給与のしくみについて）	学校法人新潟総合学園人材開発部
3	ビジネスマナー研修（租税教育）	外部講師　小菅税理士事務所

評価方法・成績評価基準	履修上の注意
出席率、授業姿勢、ワークシートの完成度等、総合的に評価を行います。 出席率80％未満の場合、原則として成績評価は行わない。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。	・研修中は全日程スーツ着用で参加すること。

実務経験教員の経歴	外部講師は各事業にて実務経験あり。講演、講義5年以上